

國際協力



フィジーにおける生態系保全に向けた緑化と環境教育(第3期1年目)

フィジー・ビチレブ島ナンドロガ・ナボサ県、ナイタシリ県、ラ県



事業概要

気候変動の影響や森林伐採による環境の脆弱化が進むフィジー・ビチレブ島において、生態系の力を活かした防災・減災を推進するため、特に脆弱な沿岸部を中心とした植林活動及び実践的な環境教育を実施する。主な活動は以下のとおり。①住民参加型マングローブ植林(育苗含む)、②15の学校及び周辺地域における植林・環境教育活動、エコキャンプの開催。

事業成果

第3フェーズ初年度は、自然災害の影響を受けつつも、学校や地域と連携し計画どおり活動できた。陸上では6の学校・地域で2,690本を植樹し、マングローブはナタウラウ村を中心に1万75本、他2地域で500本を植栽し、植林目標

を達成した。一方、海岸樹種の植栽は育苗に注力し、植林は次年度以降に実施する。環境教育やエコキャンプにより、学校間交流と環境保全意識の向上が図られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域住民への継続的な啓発により活動が地域に定着・拡大し、今後も継続的な取り組みが期待される。(シガトカ国立砂丘公園レンジャー)
- ・長年継続してきたマングローブ植林により、森が育ちつつあることを誇りに思っている。これから植林活動に取り組むところは、マングローブの成長とともにその意義が明らかになるだろう。(ヤンドゥア村民)

参加者の声

- ・クラスメートと一緒に植林を体験した。大変だったが、楽しく取り組むことができた。植えた木が大きく育つことを期待している。(Mavua District School生徒)
- ・地域の人々にも、樹木の重要性や森林の役割、生物多様性の促進について学ぶ機会を提供していただいた。次世代のために自然環境を守るため、地域に植林をするよう働きかけたい。(Nokonoko District School校長)



マングローブの苗木づくり



フィジーマツの植林



マングローブ植林



エコキャンプでの環境講義の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.52ha
植付本数：1万3,265本

参加者数

フィジー：914人
他：9人
計：923人

樹種

フィジーマツ、マホガニー、カヴィカ、シトラス、アポカドほか

地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業

マリ・クリコロ州ファナ地域



事業概要

民自らの手で苗木を植えて、将来的に育てた木を利用していくことで「里山」を再生・保護し、さらに住民の生活を安定させる。主な活動は以下のとおり。①住民による里山の再生（苗木配布による住民の小さな林づくり、植林ワークショップ）、②里山再生モデルの実践（実践者の知識・経験を共有し、実践活動を広げる）、③試験地での植生回復技術及び栽培技術の開発。

事業成果

14か所の村・小学校2校に合わせて苗木6,305本を配布して、住民の小さな林づくりと学校林の育成を進めた。里山再生の実践では、延べ9か所の村で希望する住民を対象に、育苗や樹木の植栽の勉強会を計17回開催。参加者は延べ200名で、それぞれ自身の里山で実践を行った。試験地Cで直播した在来有用種の育成を継続し、菌根菌接種に成功した苗は大苗育成を継続した。

事業をよく知る関係者の声

- ・在来の有用樹を再生産したくとも、里山が疲弊し減少しているため、在来樹の種子を採取できずにいる。採取できる地域から入手できるよう、サヘルの森の支援に期待したい。（トンカコレカブグー村新実践者）
- ・従来の柵の材料である灌木林の枝の入手が困難になり、金網を入手できない住民は樹木を育成するのが難しくなっている。（サヘルの森スタッフ）

参加者の声

- ・勉強会で学んだ手法で育苗をしたが、何度も枯れてしまった。後にフォローアップしてくれた時に、根を痛めてしまっていたことを教えてもらった。感謝している。（パフレブグー村勉強会参加者）
- ・以前は苗木を配布してもらっても枯らしてしまうことが多かったが、勉強会で植栽の仕方を学んだので試してみようと思う。（ウルフィエナ村勉強会参加者）



住民による小さな林づくりに使用する苗木の配布



新実践者が植栽について説明



試験地での在来有用樹育苗試験



実践者による在来樹林の里山再生活動

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1万7,800本
その他：苗木配布、勉強会ほか

参加者数

マリ：1,486人
計：1,486人

樹種

ユーカリ、バオバブ、カシュー
ナツノキ、シャカトウ、カイセドラ

カンボジア国シェムリアップ州における持続可能な森林管理を目指した緑化推進事業(フェーズ 1)

カンボジア・シェムリアップ州ソーニコム郡



事業概要

森林面積の減少が深刻な本事業地において、緑化推進活動を通じて地域住民の森林管理能力を向上させ、森林及び生物多様性の再生・保全を持続的に実現する仕組みづくりを目的とする。活動内容は、①地域住民と在来樹種の植林、②森林・生物多様性保全に関する啓発ワークショップ、③森林管理住民グループの形成支援指導、④持続可能な森林管理研修、⑤持続可能な森林管理、生物多様性の維持を目指した森林保全に関するパンフレットの配布。

事業成果

延べ350名が活動に参加し、そのうちアンケートに回答した40名全員が森林や生物多様性の重要性を理解し、次回以降の活動にも積極的に参加したいと回答があった。地域住

民の環境意識と参画意欲の高まりが確認された。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちに環境教育の機会をもっと提供してほしい。継続的な活動で意識を広げてほしい。(中学校教員)

参加者の声

- ・森は人間と動物にとって命の源。自然を緑に保ちたい。
- ・木を伐らず、もっと植えて、地域を守っていきたい。
- ・NGOは子どもへの環境教育や啓発活動をもっとしてほしい。
- ・コミュニティにもっと森が必要。森林はとても大事。
- ・植林活動に参加できてとてもうれしい。もっと木を植えたい。(中学生)



植林活動



現地森林管理住民グループと協働して実施



植林地管理による補植活動



森林・生物多様性保全に関する啓発ワークショップ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4.1ha
 植付本数：5,750本
 その他：ワークショップ、森林管理研修

参加者数

カンボジア：350人
 計：350人

樹種

Hopea odorata、Dipterocarpus alatus、Anisoptera costata、Pterocarpus macrocarpus、Afzelia xylocarpa

2024年度緑の国際ボランティア研修

カンボジア・トボンクムン州、シェムリアップ州



事業概要

目的は、研修員が国際緑化活動の重要性や緑の募金が果たす役割について理解を深めることである。主な活動は以下のとおり。①森林保全及び森林利用についての理解促進（講義・視察）、②国際緑化活動の必要性や緑の募金の果たす重要な役割についての理解促進（講義・視察）、③NGO（環境修復保全機構）が取り組む植林活動地の視察、④地域住民と植林体験、⑤地域住民及び大学生との意見交換と交流活動、⑥成果発表準備、⑦研修成果の発表会。

事業成果

トボンクムン州及びシェムリアップ州の植林活動地を訪問し、現地住民との交流、協働での植林体験活動、森林資源調査等を通じて、現地の人々の緑化活動への関心の向上、相互理解の深化を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・緑の国際ボランティア研修の研修員と住民と一緒に植林活動を行ったり交流することで、地域に広く植林活動への関心が広まる。また訪問してほしい。（シェムリアップ州の植林事業地住民）

参加者の声

- ・緑の募金事業による植林地での活動を通じて、子どもたちに環境保全の大切さを伝えることができた。
- ・現地の人々との交流を通じて、国際緑化の意義と自分について深く考える機会となった。
- ・将来、国際協力や開発に関わる上で、今回の研修で得た経験は貴重な財産になる。
- ・カンボジアの人々の暮らしと自然との密接な関係を体感し、環境と社会のつながりを再認識した。（研修員）



事業地における地域住民と協働での植林地管理活動



中学生への環境教育活動支援



コミュニティフォレスト訪問し森林資源調査を実施



現地大学生とのグループディスカッション（発表準備）

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：60本

参加者数

カンボジア：26人
他：86人
計：112人

樹種

在来樹種

インドネシアマドゥラ島 水と生物多様性の保全に向けた緑化と環境教育の推進(第4期2年目)

インドネシア・東ジャワ州スメネップ県、パメカサン県



事業概要

乾季には深刻な水不足、雨季には洪水等の被害が多発しているマドゥラ島で、水保全に向けた植林活動と持続的な環境保全活動を促進するため、環境教育・啓発活動を実施。主な活動は以下のとおり。23の学校及び周辺地域で苗木づくり・植林活動・環境教育活動・水保全に関する学習の実施、沿岸部での植林活動、各校の代表児童生徒・教員を対象にしたエコキャンプの実施、雨水貯水設備設置。

事業成果

23校が参加した緑化活動では、参加校に加え、大学生グループ、民間企業など幅広い主体と連携し、取り組みを展開した。雨水貯蔵設備は2校に設置され、乾季に備えられるようになった。エコキャンプには18校から児童生徒・教員が参加し、講義やネイチャーゲーム、絵画コンテスト、文化発表などを実施した。併せて、複数校で育苗活動が始まり、マングローブなどの苗の育成・一部移植が進み、次期

雨季に向けた展開が見込まれる。

事業をよく知る関係者の声

- ・雨水貯蔵設備は乾季に大きな助けとなっているが、維持管理や継続した指導が不可欠。水や緑が不足している地域の学校に活動をさらに拡大してほしい。今後も植林活動の推進を期待している。(スメネップ県環境局職員)
- ・植林活動を通じて、子どもたちに自然を大切にし、守る重要性を伝え、責任感をはぐくむとともに、地域にも良い影響を与えている。(スメネップ第3中学校 教員)

参加者の声

- ・学校での活動で環境への理解が深まり、その保全方法も学べた。今後も、より多くの人々が積極的に活動に参加してくれることを願っている。(ポンテ第2小学校の児童)
- ・以前は荒れていた学校が緑豊かで涼しくなり、とてもうれしい。今後、特にエコキャンプが続いて、スメネップ県の活動の象徴となることを期待している。緑の募金に心から感謝している。(スメネップ第三高校の生徒)



小学校での植林活動



小学校に設置した雨水貯蔵設備から引いたパイプから、散水用の水を汲む子ども



「地球を守るために心をひとつに」をテーマに18校193名が参加したエコキャンプ



中学校に育った森

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.07ha
 植付本数：3,961本
 除伐面積：0.3ha

参加者数

インドネシア：1,405人
 他：87人
 計：1,492人

樹種

マダガスカルアーモンド、マホガニー、ヤシ類、マジエンダチュエリー、マングローブ

希少野生カカオと森林樹木の植樹で原生林保護と森林拡大 (SDGs 貢献事業)

エクアドル・ナポ県テナ市



事業概要

エクアドル・ナポ県の先住民が暮らすコミュニティの原生林で発見された野生カカオ品種の自然生息地である原生林の保護及び拡大、希少な遺伝資源を保護することが目的である。活動内容は、①野生カカオの植生調査、②原生林で暮らす先住民家族との意見交換、③苗床の整備及び育苗、④コミュニティに住む28家族全員参加による植樹、⑤原生林に野生カカオとナツメヤシを再植林。

事業成果

本事業では、現地プロジェクトリーダー、先住民組合、コミュニティと連携し、課題を解決しながら事業を進めた。野生カカオの植生調査から種子・実生の収集、苗床整備、育苗を経て、28家族150名の全員参加で、野生カカオとナツメ

ヤシ合計6,000本を森林密度の低い区画の原生林に植林できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業は共同作業の強化と原生林や領土の保全、持続可能な生産の推進に不可欠だった。技術面では、希少な野生カカオの遺伝的価値が再認識された一方、過湿や動物被害による森林種の高い枯死率が課題として残った。今後は、伝統的な助け合いの精神「ミンガ」を活かしつつ、追加再植林や追跡調査を徹底し、違法伐採に頼らない先住民の自立的な収入源としての可能性も追求していきたい。(Winak組合代表)

参加者の声

- ・キチュア族の伝統的な共同作業である「ミンガ (Minga)」を繰り返し実施し進めていけたのがよかった。「現金」を支払うのではなく、「食事 (朝食・昼食)」を囲み、コミュニティ全員が助け合って植林を行うことこそが、団結力を生み、苗床の整備や植林への意欲につながった。(森林技術者)



現地の資材を使った苗床で育苗



野生カカオ3,000本、ナツメヤシ3,000本を植林



野生カカオの植生調査 (右下が野生カカオの実)



話し合いをして植林の計画を進める

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：60.0ha
植付本数：6,000本
下刈面積：60.0ha

参加者数

エクアドル：544人
計：544人

樹種

野生カカオ、ナツメヤシ

インドネシア・プダワ村水源地保護事業

インドネシア・バリ州ブレレン県プダワ村



事業概要

バリ州ブレレン県プダワ村の住民の生活用水でもあり、聖地ともされている水源地の涵養機能の向上のために植林を行った。日本からは岩手大学の学生7名、東京都市大学の学1名、NPO職員2名、現地からは国立ガネーシャ教育大学教師、学生NPO法人が参加した。現地では伐採等により、枯れてしまった水源地が多数あり、今回の主な活動は、①水源地3か所に苗木を植林、うち1か所に看板を設置、②環境セミナーの開催。

事業成果

今年度は、昨年度同様500本の苗木を植林した。ガネーシャ教育大学シンガラジャキャンパス内で環境セミナーを開催し、インドネシアと日本の森林の違いとプダワ村の現状に関する発表が行われ、共通の認識が得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・現在プダワ村は木々の伐採により、多くの水源が減少し

ている。約85か所の水源のうち、良好な状態を保っているのはわずか10%。水源の保護を急いで進めなければならないため、この事業に関わった関係者に感謝する。また、この活動は教育的に有意義であり、学生が学内外で協力する機会を得るとともに、環境問題への理解と地域環境への意識を高めるきっかけとなる。今後も継続して行ってほしい。(大学教授)

参加者の声

- ・植えた木がどのような形で役に立つか知ることができた。宗教儀式に木が使われることを知り、バリ島の文化についても学ぶことができた。大切な水源や森林を守るお手伝いができ、大変良い経験になった。(大学生)
- ・植林活動への参加を通して、木を植えることによりその地域及び地域住民の未来を守っていく活動なのだと感じた。この経験を忘れずに、今後の学びに生かしていきたい。(大学生)



8種類の苗木



植林活動



設置された看板前で記念撮影



ガネーシャ教育大学で環境セミナーを開催

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8.0ha

植付本数：500本

参加者数

インドネシア：90人

日本：11人

計：101人

樹種

マジュガウ、ジャックフルーツアユタナ、ギントウガン、チョンパカ、カユアブほか

生活改善を通じた果樹植樹・海岸部緑化事業

エルサルバドル共和国・ラウニオン県南ラウニオン市コンチャグア行政区



事業概要

エルサルバドル最東端コンチャグア行政区の海岸地及び山岳地の8集落において、緑化による美観や日陰づくり、果樹の植樹を通じた住民の生活改善（家庭調和・栄養促進・起業促進）が目的である。主な活動は、①植樹と維持管理の技術講習会、②美観・環境保全・生活改善の先進地視察と合同振り返り、③自発的な環境保全に向けた生活改善ワークショップ、④植樹場所の下刈りと整備、⑤美観用苗木・果樹苗木の植樹、⑥事業のPR看板の作成・設置、⑦事業広報紙、事例集、ガイドラインの策定・印刷・配布。

事業成果

予算不足で停滞していた集落中心部や校庭の植樹と、各家庭での栄養改善・起業向け果樹苗の導入が実現し、美観と日陰を確保するとともに、住民の意欲と地域改善への意思が高まった。賛同は4集落に拡大。コンチャグア行政区は、8行政区へ人材育成を展開し、総じて地域おこしネッ

トワークが強化された。

事業をよく知る関係者の声

- ・2021年以降、予算・人員削減や大合併に直面する中でも、生活改善アプローチにより主体的な行動と変化の実現の重要性を学んできた。本事業を通じて住民自ら地域改善に取り組む姿勢が定着し、今後は学びの波及と人材育成を軸に、環境維持と美観向上に貢献したい。（コンチャグア行政区コーディネーター）

参加者の声

- ・家族として何をすべきか、どうなりたいか、土地をどう活かすかなどを話し合えた。夫婦や子どもとの対話も増え、今後も続けていきたい。（ガラパタル集落女性）
- ・公園は木が少なく夏は暑く、バスケットやフットサルができなかったが、コート周辺や花壇への植樹で環境が改善した。木の成長が楽しみで、今後は皆で管理したい。（ジャノデロスパトス集落青年層）



集落開発委員会による穴掘りから植樹までの作業（サンラモン地区）



苗木管理の確認（トロロ集落）



南モラサン市環境課が管理運営する苗畑視察・意見交換（南モラサン市）



事業PR看板の設置（ラバス集落）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：1,162本

参加者数

エルサルバドル： 3人
他： 110人
計： 113人

樹種

マンゴー、レモン、サポテ、
ピワ、バナナほか

里山の森と共存するファーム・フォーレスト

フィリピン・ラグナ州パエテ町



事業概要

第1年次のパエテ地区における森林資源を活用したファーム型森林再生の成果を踏まえ、近隣地区への普及を図るため、ベイ町の農民組織が保有する未活用森林跡地において、果樹林と混成したアグロフォレストリーの実践を行うことを目的とする。果樹や商品的価値のある特用樹種の植栽エリアを確保し、PO (People'Organization) 活動住民の自主的・継続的な取組意欲に配慮しつつ、パエテ町での視察・意見交換を行うとともに、経済性や早期収穫性を考慮した樹種を選定し、森林で覆う植栽パターンを設計・実施した。

事業成果

植栽樹種は、在来天然広葉樹に加え、果樹やエッセンシャル・オイル採取等の特用樹木を組み合わせた混植方法によって、植栽地からの経済的効果を高める計画を実施した。その結果、POに属する地域農民が森林管理への参加意欲が

向上し、生計向上につながる取り組みとして、本森林再生事業が多くの農民に歓迎された。

事業をよく知る関係者の声

- ・フィリピン大学の助言のもと、地元PO農家の後押しにより、自然依存型植林から経済効果誘導型植林へと変わった。前年度のパエテ地区関係者の自主的な維持管理意識が高まった。今後は、アグロフォレストリーの運営による維持管理費の確保と、ベイ町職員の指導が重要である。(フィリピン大学森林資源保全学部スタッフ及び町担当職員)

参加者の声

- ・日本の森林とは異なりココナッツが目立つ一方で、元来の森林は減少し草地向化が進んでいると感じた。森林再生に向けた現地住民の取り組みは貴重であり、今後も機会があれば参加したい。(埼玉県より参加の主婦)



植栽地で下刈り作業



植栽地の除草



生育管理、バイオチャーの活用等に関するセミナーを実施



事業地に設置された本事業説明看板

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.9ha
 植付本数：1,430本
 下刈面積：1.5ha
 その他：現地トレーニング、セミナー

参加者数

フィリピン：8人
 計：8人

樹種

Malaruhát、マンゴスチン、ランブータンほか

モンゴル南部のゴビ砂漠緑化と環境保全事業(3年目)

モンゴル・ウムヌゴビ県



事業概要

モンゴル南部のゴビ砂漠地域において、砂漠化防止のため、対象地域並びに学校で、住民参加による砂漠緑化のための植林活動や環境セミナーを行う。さらに、次世代を対象に4つの学校敷地内での植林活動や環境教育活動を実施する。

事業成果

事業最終年となる今年度は、地元行政の要請を受け、これまで対象外であった住民に対し、緑化・保全技術及び環境意識の向上を目的としたセミナーを実施した。市長も参加し砂漠化防止の重要性を訴えたことで、本事業の意義が広く住民に周知された。

事業をよく知る関係者の声

・市内で多くの住民にこの活動に参加してもらい、その意

義についても理解が深まったことは、とてもうれしい。(ウムヌゴビ県ダルンザドガド市長)

・学校の生徒が、実際の活動を通して環境の問題を学ぶことができる本事業は、とても有意義であった。(ダルンザドガド市ポリテック専門学校校長)

参加者の声

・砂漠化防止のために、皆さんが協力して取り組むことの重要性を学んだ。今後も、自分たちでできる取り組みを続けていきたい。(ダルンザドガド市ポリテック専門学校生徒)

・素晴らしいプロジェクトが地元で実施され、うれしい。このプロジェクトが砂漠化防止につながるよう今後も見守っていきたい。日本の皆さま、本当にありがとうございました。(ウムヌゴビ県住民・植林活動に参加)



植林の様子(ダルンザドガド市)



植林する苗木(ダルンザドガド市第33幼稚園)



次世代を対象にした学校敷地内での植林活動(ダルンザドガド市第33幼稚園)



住民向けの環境セミナー

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.15ha
植付本数：3,000本
補植：130本

参加者数

モンゴル：729人
計：729人

樹種

ニレ、タマリクス、モンゴルアーモンド

ラオス国における「村民の森」保全促進事業

ラオス・ビエンチャン県ナムパット村



事業概要

森林劣化が懸念されるラオス国において、森林機能の向上と山村の所得機会の創出を目指し、集落の森や学校林など「村民の森」における植林等の取り組みを支援するとともに、住民による地域森林の持続的な保全・利用の促進を図ることを目的に、協働で植樹行事等を行った。

事業成果

ナムパット村の村有林において、村民と協働で植樹行事を行うとともに、森林産物を活用するためのセミナーや木工ワークショップ、森林見学会などの活動を行った。植樹祭には、村民109名、小中学生と教師60名、ラオス大学林学部学生ら14名のほか、中央・省・郡の職員78名が参加（総勢287名）、その模様は植樹啓発活動としてテレビで全国放映された。また、ラオス大学の学生や地元住民たちとこれ

まで植林により造成された森林の観察会を行い、技術交流を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 森づくり支援は、地域住民に育林意欲を喚起するために貴重である。(森林局職員)
- ・ 森づくりや森林産物の利用に関して議論できて参考になった。(ラオス大学教授)
- ・ 村民や子どもたちの森林への理解を深める機会となった。(ナムパット村長)

参加者の声

- ・ 様々な在来樹種を植えたので、将来どんな森になるのか楽しみだ。(地元中学生)
- ・ 植えた苗木は自分たちが責任をもって育てる。(地元住民)



植樹 (近景)



植樹 (遠景)



木工のワークショップ



造成熱帯エコツアー

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.0ha
 植付本数：2,222本
 地拵面積：2.0ha
 獣柵作設：500㎡
 ワークショップ：1回
 森林セミナー：4回
 エコツアー：1回

参加者数

ラオス：362人
 日本：65人
 計：427人

樹種

ビルマカリン、シタン、チーク、ノタフォーベ、メンガほか

モウス沙地における持続的砂漠緑化事業

中国内モンゴル自治区・オルドス市オトク旗査汗敖包嘎查モウス沙地



事業概要

当地民間環境保護団体「査汗陶老亥小队」(以下、現地団体) 協力のもと、自然・社会的条件に即した形で植栽を実施し、砂漠化防止と緑化、事業自立化を目指す。以下4項目を中心に取り組む。①急速に進行する当地の砂漠化を、在来低木種の植栽で防止、②在来低木種を植え付けることで、植生を回復させ生態系を再生、③植栽した苗木から挿し穂や種子を得ることで緑化資材の自給化を図り、自立化した事業へと移行、④地域住民及び現地団体と共同で事業を進め、緑化活動に対する技術及び意識の向上を図る。

事業成果

事前調査では周辺住民から在来低木種を中心に植栽し、自分たちが活用できるように緑化を進めてほしいという要望が多かった。本事業では家畜の飼料や屋根材など住民の

生活に結び付く在来低木種を選択して植栽することで、現地の要望に沿った砂漠化地域の緑化を実施できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・地球緑化クラブ現地スタッフが長期間滞在し、細かく技術指導してくれたことに感謝している。また、今回用いられた苗木は近い将来私たちの生活を豊かにしてくれると知り、住民の緑化活動に対する意欲は確実に向上している。(現地パートナー「査汗陶老亥小队」担当者)

参加者の声

- ・砂漠化してしまった土地が、難しい技術や特別な資材を使わずに緑化できることに驚いた。この方法であれば、苗木さえあれば自分たちの家の周辺でもできると感じた。(近隣住民植付け作業参加者40代男性)



在来低木種苗木の搬入



在来低木種植栽作業



沙柳は1穴に挿し穂5本を植栽



事業地外周に金網防護柵を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：6ha
植付本数：15万6,000本
金網防護柵：1,000m

参加者数

中国：286人
他：58人
計：344人

樹種

沙柳、羊柴、樟条

アマゾン河口島での河岸侵食防止植樹活動

ブラジル連邦共和国・パラ州ベレン市コチジューバ島



事業概要

宅地・農地転換に伴う森林伐採や植生劣化により、河岸部で土壌流失が深刻化していることから、土壌保全及び環境劣化の防止を目的として植樹を実施した。

事業成果

コチジューバ島北東部の河岸部において、在来種50種・2,000本の苗木を混植・密植した。併せて、土地の有効利用の呼びかけに賛同した住民4軒で、ヤシ類・果樹・有用樹計200本を植樹した。さらに、2地域のコミュニティを対象に、薬草栽培とその利用方法、果樹類の生産向上に資する在来種ミツバチの養蜂の指導も行い、住民の収益向上に寄与する取り組みも継続している。加えて前年度に続き、岸辺でのマングローブ植樹も1,000本以上実施できた。

事業をよく知る関係者の声

・プロジェクト実施地の住民、特に女性たちが主体となり、

島の環境を守り、生活向上につながる本事業への理解が進んできたと思う。指導的な立場になった住民も出てたが、まだ現地提携NGOからの伴走支援が欠かせない。住民の多くは、受け身の者で、自分の土地に植えた作物、果樹を自ら育てることができるように、見守っていくことが大切と感じている。(現地提携NGOボランティア)

参加者の声

・この活動で、自然に基づいた植樹モデルを行うことで、河岸浸食を遅らせることができるという認識が高まった。木が十分に大きくなれば、河川と河岸の崖の間で緩衝帯の役割を果たしてくれる。特にアカマングローブの苗木は、水中に深く張り巡らされた根が四方八方に張り巡らされているため、土壌の流出を防いでくれている。これにより、地域住民全員が移住することなく、地域に留まることができる。(集落のリーダー)



前年度植樹地の下刈り作業中



地拵え作業前の様子



植樹作業中



植樹に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.44ha
 植付本数：2,200本
 下刈面積：0.3ha

参加者数

ブラジル：186人
 他：2人
 計：188人

樹種

アサイー、アンジローバ、バカウバ、バクリ、カカオほか

キリマンジャロ山麓緑化及び社会林形成事業

タンザニア連合共和国・キリマンジャロ州モシ県



事業概要

過去100年で約3割の森を失ったタンザニアの世界遺産キリマンジャロ山で、山麓住民、地元NGOなどと協力して、裸地尾根への森林再生、村内裸地での社会生活林形成に取り組む。主な活動は、①山麓の小学校への学校苗畑の立ち上げ、②NGOによる学校苗畑の定期巡回指導、③住民参加で劣化土壌に強い樹種による荒廃裸地森林再生植林及び蜜源樹苗木配布による村内での社会生活林形成、④住民の長期的な森林保全活動を側面支援するため、森へのオーナーシップ意識形成を目的としたステッカー作成・配布。

事業成果

植林地は山麓40村の協議により選定し、村の垣根を取り払った地域連携による植林実践が定着しつつある。村内での社会生活林形成植林では、蜜源樹植林により各村に「みつばちの森」をつくっていきこうとの機運が生まれつつあり、キリマンジャロ山での村落植林の新たな方向性を築けた。

事業をよく知る関係者の声

- ・キリマンジャロ山でのコーヒー栽培が低迷する中、蜜源樹植林による養蜂振興は新たなアイデアだ。住民たちの植林へのモチベーション維持にも貢献すると思う。(県森林官 50代)
- ・山麓村連携による植林の拡大に伴い、今度さらなる苗畑の開設が必要。小規模分散型の育苗体制を構築する必要がある。(地元NGOリーダー 60代)

参加者の声

- ・山の斜面は急で植林も何日もかかるので大変。ただ最近では土砂崩れが多くなり、森を回復しないと暮らしが危険なので続けないといけない。(村の女性 40代)
- ・私の村でも早く蜜源樹の植林に取り組みたい。苗木配布をもっと増やして欲しい。(他村村長50代)
- ・自分で育てた苗木をもらえてうれしかった。木の用途を幅広く学べた。(学校苗畑担当の生徒 10代)



小学校で苗畑育苗作業



植林作業



苗木を配布



山麓村の首長を集めた合同会議

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.75ha
 植付本数：6,000本
 下刈面積：1.1ha
 苗畑指導：12回
 山麓村全体会議：3回
 苗木配布：4,000本

参加者数

タンザニア：1,510人
 他：4人
 計：1,514人

樹種

カリアンドラ、クロトン、グレベリア、パトゥラマツ

ジャカルタ湾岸 マングローブ林再生プロジェクト

インドネシア・西ジャワ州ブカシ県パンタイ・バハギア村



事業概要

ジャカルタ西部湾岸地域におけるマングローブ林の回復事業。エビ養殖池においてシルポフィッシュアリー形式(造林と漁業を組み合わせた手法)の森林回復を目的とし、オオバヒルギの植林を実施する。植林事業により将来的に自然生態系の回復が見込まれ、天然のエビ・カニなどの漁業資源の回復が期待できることから、森林回復活動と地域住民の生計向上効果の両立を目指す。本事業は社会林業プログラムの趣旨に合致すると考えられ、地域住民への環境教育と啓発、成果報告を実施した。

事業成果

事業実施地における優先種であるオオバヒルギを対象に、計8.0haのエビ養殖地において、計2万本の植林を実施できた。さらに、地域住民の要望を踏まえ、海岸浸食の被害が発生している地点に防護林として線状に植林し、浸食による養殖池の流亡を防ぐ工夫を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業の成果について、①予定どおりの植林が実施できたこと、②地域住民の参加によって植林が実現できたこと、③地域の森林回復活動にとってモデルとなりえること、などの観点から大きな評価を得ることができた。また、環境林業省が新規に始めている社会林業プログラムの趣旨とも合致することから、環境林業省への成果報告なども勧められている。(現地を管轄する林業公社職員)

参加者の声

- ・事業参加者の地元漁民は、マングローブ林の回復によるエビ・カニ等の漁業資源の増加に期待を示している。過去に植林を行った地域では天然の漁業資源が回復し、漁獲量の増加により収入向上につながっている。今回植林した苗木が活着し森林が回復するまでに数年が必要となるが、今後も自助努力で森林回復に努めたい。(植林実施地域住民)。



オオバヒルギの育苗の様子



ボランティアによる添え木の製作



オオバヒルギの植林



事業看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8.0ha

植付本数：2万本

参加者数

インドネシア：82人

他：2人

計：84人

樹種

オオバヒルギ

カンボジア国トボンクムン州の里山再生を目指した緑化推進事業(フェーズ1)

カンボジア・トボンクムン州メモット郡



事業概要

本事業では、非持続的な森林開発により森林減少・劣化が進むカンボジア国トボンクムン州において、人と自然が共生できる里山再生を目指し、地域住民・学校・地方行政と協働して、以下の活動を実施した。①里山再生を目指した植林、②持続可能な森林管理に関する知識・技術力の向上を図る研修、③里山再生の重要性を啓発するワークショップ、④適切な森林管理に必要な知識・技術と森林と里山再生の重要性を記したパンフレットの配付。

事業成果

本事業は小学校で実施され、特にリモート地域の児童にとって限られた環境教育の機会の中、植林活動へ積極的な参加が見られた。合計335名が参加し、学校・地域・保護者の協働体制が形成された。モニタリングの結果、苗木の生

存率は当初25%であったが、水タンク設置により35%まで回復し、補植活動も行われた。アンケート回答者20名の大多数が森林や生物多様性の重要性を理解し、次回以降の活動にも参加を希望している。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後の課題としては、活動への関心を継続的に維持しつつ、より多くの地域や学校へと活動を広げていくことが重要だと考える。(森林局チーフ)

参加者の声

- ・より多く苗木を提供してほしい。(6年生 女子)
- ・植林活動に参加できてうれしかった。(6年生 男子)
- ・これからも活動を継続したいので支援してほしい。(住職 67歳)



植林活動前のセレモニー



植林に関する説明



植林の作業中



植えた木とともに記念撮影

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4.02ha
 植付本数：5,600本
 補植面積：0.09ha
 補植本数：120本
 ワークショップ：1回
 研修：1回

参加者数

カンボジア：335人
 計：335人

樹種

Azelia xylocarpa、Dalbergia cochinchinensis、Pterocarpus macrocarpus、Dipterocarpus alatus

パレスチナ・ヨルダン川西岸地区ナブルス県における植樹事業

パレスチナ・ナブルス県イジェンシニヤ村



事業概要

パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区ナブルス県イジェンシニヤ村において、公共スペース及び耕作放棄地への植樹を行い、同村が推進する地域緑化の支援を目的として、以下の活動を実施した。公共スペースへの植樹：①植樹と管理の担当住民を選出、②公共地の整備（整地、獣害防護フェンス設置など）、③植樹会に参加するボランティアを募集、④樹種の選定と苗木調達、⑤苗木を入れる穴を掘削、⑥植樹と施肥、⑦灌漑設備の設置、⑧農業専門家と事業運営スタッフによる灌漑設備や植樹木に対する技術指導。耕作放棄地への植樹：①耕作放棄地を有する農家20世帯を選定、②選定された農家に苗木を配付し、定植方法に関するワークショップを実施。

事業成果

植樹会では、隣村で生産されている有機堆肥を使用したことをきっかけに、参加者の間で環境負荷を抑えられる有

機堆肥への関心が高まった。また、植樹会後には有機堆肥を生産する隣村と協力し、参加者に堆肥のサンプルを配付した。

事業をよく知る関係者の声

- ・整地に必要な石材の搬入に難航したが、無事に整地作業を終えることができた。治安・経済の悪化下でも、農家・女性グループと協働し、住民参加の植樹会を実施した。緑化の推進に加え、閉塞感の中で人々が一息つける場を生み出した。今後は同グループと連携して植樹地の維持管理を継続し、憩いの場として定着させるとともに、村内他地域へ展開する。（イジェンシニヤ村村長）

参加者の声

- ・木の苗を自分で植えるのは初めてだった。地域の人と一緒に苗を植えるのが楽しかった。そして、村の大人が苗の扱いがとても上手な様子を見て驚いた（植樹会参加者 10代男性）。

- ・苗を植えた後に有機堆肥を施肥した。植樹会で農業専門家がその効果を説明してくれたので、自分の家庭菜園でも使ってみたい。（植樹会参加者 50代女性）



農家へ苗木配布後にワークショップを開催



植樹場所の整地



植樹会に子どもも参加



公園周辺に植樹された木の生育状況を確認

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：6.0ha
 植付本数：645本
 定植ワークショップ：1回
 植樹会：1回

参加者数

パレスチナ：75人
 計：75人

樹種

ブドウ、モモ、プラム、ピスタチオ、イナゴマメほか

ミャンマー国ウトゥ村周辺村の住民によるマングローブ林再生

ミャンマー・エーヤワディ地方カンジ村落区



事業概要

荒廃したベンガル湾沿いのマングローブ林の再生を目的に、ミャンマー国ウトゥ村周辺のカンジ村落区で住民による植林を実施するとともに、子どもたちへの環境教育を通じて次世代への継承を図る。活動内容は以下のとおり。①5村にマングローブ保全委員会を設置、②苗木植栽と種子の直播で、約2万本のマングローブを植林、③村人たちへの環境学習会、④地元の小中学生を対象に環境学習会と野外観察会、⑤保全地域の境界線に、保全の標識を設置。

事業成果

各村は漁業中心でマングローブ資源への依存度が高く、保全委員会の活動は概ね順調に進んでいる。ウトゥ村の苗床と住民の豊富な経験を基盤に、植樹活動を展開できた。植林、環境学習、小中学校5校での野外観察会を計画どおり実施できた。2年目の植樹活動に向けて種子の採取活動も行われ、2万本の幼苗が苗床に植えられた。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動を通じてコミュニティ全体の環境保全への意識が高まってきたことが大きな成果だ。燃料利用目的のマングローブ伐採は見られなくなり、魚類・エビ・カニの生息密度にも変化がみられる。(MFAメンバー、元森林局員)
- ・伐採などでできた空き地が少なくなり、マングローブの苗木が植えられている光景を見ながら、川で捕れるエビやカニの漁獲量が増えていることがうれしい。(村の漁師)

参加者の声

- ・船でマングローブ林の実際を見学し、マングローブの大切さを教えてもらった。その恵みを実感することができた。(中2の生徒)
- ・中1の子どもから、学校でマングローブは普通の陸上林の約5倍の二酸化炭素を吸収すると学んだと聞いた。村のマングローブ林が娘の世代にも豊かに残っていてほしい。(中学生保護者 30代)



植林活動



学校での環境学習会



ボートでのマングローブ野外観察会



2年目の植林に向けて3万の苗木が苗床で育っている

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.38ha
 植付本数：2万2,150本
 下刈面積：3.38ha
 苗床作業：2万9,800本
 環境学習会：5回
 観察会：2回

参加者数

ミャンマー：1,660人
 計：1,660人

樹種

フタバナヒルギ、オオバヒルギ、オヒルギ、デカンドラコヒルギ、シロバナヒルギ

ナイロビ川河川敷の環境保全回復活動

ケニア・ナイロビ市コロゴッチョ地区



事業概要

コロゴッチョ地区でナイロビ川河川敷の環境回復と生物多様性保全を進めることを目的とする。主な活動は、①ナイロビ川河川敷の環境、②グリーンパークの整備、③団体が育成した地域の環境リーダーCEWs (Community Environment Workders) と協働して、地域住民参加型の環境活動 (セミナーの開催や植樹活動) を実施。

事業成果

2024年4月のナイロビ川の洪水の発生により河川敷の環境は著しく悪化し、周辺住民も避難を余儀なくされた。その後、地域住民と協力し、荒廃した河川敷の清掃及び補修・環境改善に取り組んだ。併せて2,400本の植樹を実施し、河川敷の環境回復と保全に向けて大きく前進した。

事業をよく知る関係者の声

・子どもたちや地域住民の方たちを巻き込みながら、地に足の着いた活動を展開している Little Bees には、コミュニティを預かるものとしても非常に頼もしく思っている。Little Bees ではなく Big Bees になるように、これからも地域の環境回復・向上のために協力をお願いしたい。(コロゴッチョのチーフ行政官)

参加者の声

・皆で木を植える活動は、とても楽しい経験。まさに苗木は希望の種であり、グリーンベルト活動 (植樹) は、コミュニティをまとめてくれるムーブメントでもある。参加できることをうれしく誇りに思うし、これからもできるだけ参加したい。(地域の小学校教員)



苗木を配布



植樹作業



環境セミナー



整地活動

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.2ha
 植付本数：2,400本
 樹勢回復：50本
 下刈面積：12.0ha
 整地活動：12回
 イベント：5回

参加者数

ケニア：1,200人
 他：21人
 計：1,221人

樹種

アカシア、カリヤンドラ、セスバニア、アフリカンオリブほか

中央カリマンタン国立公園周辺地域の環境保全事業

インドネシア・中央カリマンタン州コタワリンギン地方



事業概要

開発により減少した熱帯雨林を再生するとともに、国立公園周辺地域に暮らす住民の環境意識を高めながら、地域主体で保全活動に取り組む基盤を育てることが目的である。活動内容は、①村の有志とともに、国立公園エリア内のバッファゾーンにおいて、宮脇メソッドを参考に在来種を中心とした苗木約2,200本を植樹、②保育園児から中学生までを対象に、ポイ捨て問題やマイクロプラスチック問題をテーマとした環境教育プログラムを実施。

事業成果

苗木の植樹を実施し、生態回復エリアの拡大につなげた。併せて、ポイ捨てやマイクロプラスチック問題をテーマとする環境教育を実施し、視覚教材の開発・活用により地域の実情に即した学習内容とした。また、教育局や教員と協働し、教材開発と授業実施の体系的な枠組み整備を進めた。さらに、ワークショップや体験型学習を通じて、地域にお

ける清掃活動への自主的参加の促進につなげた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちには、自分の行動が環境にどう影響するかを初めて考えるきっかけとなった。特に、プラスチックゴミについての授業は印象深かったようだ。(教員)
- ・参加者の笑顔を見ると、このプロジェクトの意義を実感する。環境教育を通じて、世代を超えた意識の変化が感じられる。(プロジェクトスタッフ)

参加者の声

- ・ゴミが海の魚を苦しめると聞いて、びっくりした。これから道にゴミを捨てないようにしたい。(小学生)
- ・植えた木が大きくなるのが楽しみ。森が増えると動物もうれしいと思う。(小学生)
- ・マイクロプラスチックが体に入るかもしれないと聞いて、怖くなった。家族にも教えたい(中学生)



苗木を運搬



植樹された苗木



事業看板を設置



ポイ捨て問題やマイクロプラスチック問題をテーマとした環境教育

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
植付本数：2,200本

参加者数

インドネシア：184人
計：184人

樹種

在来種

中国内蒙古・ホルチン砂漠の砂漠化防止活動

中国内蒙古自治区・通遼市



事業概要

過放牧や過開墾等の人為的な経済活動により急速に砂漠化が進行した中国・ホルチン砂漠の植生の復元及び地元住民の自立支援を目的として、次の緑化・砂漠化防止活動を行う。①過去に緑化した荒漠地約450haにおいて、マツとニンテアオを植栽、②井戸2本の掘削、植栽した苗木の灌水を実施、③ニンテアオの種を播種、④ポプラの除草や防護柵の管理で活着率を向上させる。

事業成果

本年は、植生が乏しい箇所及び枯死地の再緑化を実施した。ニンテアオは播種主体へ転換し、播種機で大量播種

を実施した。除伐材の飼料利用が可能なことから効率的な造林が求められ、住民もその趣旨を理解して作業に従事した。また、家畜価格の変動や飼料不足により放牧畜産の持続性が課題となる中で、ニンテアオの飼料利用への住民の期待の高まりを改めて確認した。

事業をよく知る関係者の声

- ・40代から緑化ネットワークに参加。60代半ばとなり、この半生で砂漠化の速さと、緑を取り戻す長い時間と労力の両方を体験した。壊すのは簡単で、誰もあまり責任を感じていない。誰もが家畜を増やしたがるからだ。しかし再生は困難だった。この教訓を若い世代や子どもたちに伝え、引き継いでほしい。(ガボウ村2分場元場長 60代男性)

参加者の声

- ・今年は森を広げないと聞き、少しホッとした。既に長い柵で囲っており、その見回りや修理を担当する自分にとっては作業が増えず安心した面もある。しかし、柵内はまだ白いところも多く、今年はそこに種まきや植栽を行うと聞いた。土地分けでは良し悪しによって不満や羨望が生まれやすいため、そうした分断を避ける配慮だと感じ、村のことを考えていると思った。(ガボウ新村次村民)



子どもたちもマツの植栽に参加



地元住民によるマツへの灌水



ボランティアがマツ周辺の除草作業を実施



ニンテアオ播種作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：19.0ha
植付本数：5万1,000本
播種面積：260ha

参加者数

中国：132人
計：132人

樹種

ニンテアオ、マツ

地域住民のための共有林づくり

ネパール・カブレパランチョーク郡パンチカール市4区



事業概要

目的は、ボクセ共有林の価値向上と住民の森林保全活動への参加促進である。パンチカール市4区のボクセ共有林において、利用者グループのメンバーを中心に以下の活動を実施した。①樹種の選定・植樹、水源確保のための貯水池設置、②利用者グループを対象とした森林管理研修、共有林資源を活用した堆肥づくり研修、③小中学校の生徒たちを対象とした森林ガイドウォーク・環境教育の実施。

事業成果

私たちの活動として初めて森林管理研修を実施し、一歩前進となった。森林の手入れに関心の薄い層にも、今が手入れの必要な時期であることを理解してもらった。参加した森林局職員からは、他の共有林にも広げたいという気づきがあった。これまでの環境教育から森林にテーマを絞って実施した。利用者委員会のメンバーと学校の生徒たちがゲームを交えたガイドウォークを行えたことも成果である。

事業をよく知る関係者の声

- ・当共有林に、植林を始め、新たな森林管理研修などを導入したり、様々な支援をしてくれたことに感謝している。どれも森林に必要な活動であって良かった。ただし、各活動にグループメンバーに参加を呼びかけるのに苦労している。今後は、自分たちの森林を管理しながら、資源を使う利点をメンバーに周知して、積極的な参加を促したい。(ボクセ共有林利用者グループ運営委員長)

参加者の声

- ・森林を管理することが必要だということが分かった。(森林管理研修：利用者グループメンバー)
- ・ほかの共有林でも研修を実施したい。(森林管理研修：森林局職員)
- ・学校の隣にある森なのに、何も気にしていなかった。いろいろな種類の植物があることが分かった。(ガイドウォーク：ドゥゲシヨール小中学校 男子学生たち)



24種類の樹種を植樹



下刈りの実施



コンポストづくり



小中学校でガイドウォーク

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.81ha
 植付本数：757本
 下刈面積：0.35ha
 森林人材育成・研修：8回
 貯水地設置：4か所

参加者数

ネパール：336人
 計：336人

樹種

マカデミアナッツ、タマラニッケイ、ムラサキフトモモ、クスノキ、ヒマラヤザクラほか

緑のエコクラブ要員養成とヘンティ地域の苗場造成

モンゴル・ヘンティ県ダダル村



事業概要

ヘンティ県ジンギス市の北東にダダル村があり、事業地は同村立中学校に隣接する約20haの草原・乾燥・荒廃地である。事業スタッフは当センターのほか、ヘンティ県・ダダル村の環境管理課職員及びモンゴル国立教育大学生物系教員で構成される。目的は、各中学校にエコクラブを結成し、そのクラブの要員養成を行うことであり、内容は以下のとおり。①苗場造成・植樹、②温室技術講習会、③植林技術講習会。

事業成果

ダダル村において、①苗場造成・植樹(30人×3回)、②温室技術講習会(20人×3回)、③植林技術講習会(50人×2回)を実施できた。そして、計250人のエコクラブ要員を養成した。

事業をよく知る関係者の声

- ・当法人は、環境問題が深刻なゴビ市において、砂漠化防止のための植林に取り組んだ。ゴビ地域の環境は苛酷で、一般的な植林方法では本事業は達成しない。困難な事業は地元国との深いつながりの中から成功に導かれる。本事業はモンゴル国のモデル植林事業として位置付けられ、モンゴル国行政機関の参考の地になっている。その結果、当法人はゴビツンベル県文化栄誉賞、理事長は名誉市民を授与された。

参加者の声

- ・楽しかった。育つかどうか心配。(中学生、住民30代女性)
- ・樹木の知識が増えたこと、植栽について今まで分からなかったことが理解でき良かった。これからもこの講習会を実施してほしい。(地域住民、50代男性、40代女性、中学教師)



苗場造成地



造成地内に温室造成



住民への植林講座



小学生への植林講座

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8.0ha
 植付本数：1,500本
 樹勢回復：1,000本
 苗場造成：8.0ha
 各種講習会：8回

参加者数

モンゴル：200人
 計：200人

樹種

マツ、ウイルス、シャルハイツ、クレムツ

フィリピン沿岸部の自然再生のための植林事業(3年目)

フィリピン・西ネグロス州 サンエンリケ郡タバオ・ベイベイ村



事業概要

目的は、浸食される沿岸部の住民の生命と財産を守り、生態系が保全され漁獲高が回復することを目指して、マングローブを植林することである。主な活動内容は以下のとおり。①沿岸部にマングローブの苗(ボガロン、バカウ)を植林、②地域住民による定期的な沿岸の清掃活動、③地元の学生を対象とした環境教育の実施、④日本人ボランティアを現地で受け入れ、地元住民と共に植林の実施、⑤当団体のスタッフによる住民団体のメンバーへの技術指導。

事業成果

政府もタバオ・ベイベイ村の土地の浸食の深刻さや植林の重要性を理解し、2025年2月から台風による高波等から住民を守るための防波堤の建設が開始された。また、今後は政府により植林活動の支援も行われる。これまで、地元住民と地道に協働しながら活動を続けてきたことが周知され、良い形へとつながったと言える。

事業をよく知る関係者の声

- ・当初、想定していた苗の生存率ではなかったが、活動を通して、住民団体と強い関係性を築くことができた。また、郡の協力(防波堤の建設)も得ることができた。これらの功績は、今後も活動を続けていく上でモチベーションとなる。(現地コーディネーター)

参加者の声

- ・みんなで協力して、この環境活動を成功させることができた。全ての過程が簡単だったわけではないが、その努力は本当に価値のあるものだった。(現地住民団体の代表)
- ・マングローブの植林を通じて、地域の人々との交流でき非常に楽しかった。植林の意義や団体との関係性、地域の人々がどのような考えの元、この活動を続けているのかということを知ることができ、良い思い出となった。(日本人ボランティア・大学生)



植林するボガロン、バカウの苗木の確認



植林の様子(近景)



植林の様子(遠景)



環境教育を実施

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.8ha
植付本数：1万8,500本
清掃活動：毎週
環境教育：1回

参加者数

フィリピン：342人
他：1人
計：343人

樹種

ボガロン、バカウ

防災と食料安全保障のための植林活動

エチオピア・エチオピア州ガモ県ウバ・デプレツァハイ地区ザバ郡



事業概要

目的は、急激な人口増加に伴う農地拡大と森林減少によって高まっている自然災害リスクを低減するため、環境保全活動を推進することである。主な活動は以下のとおり。① 昨年の洪水によって破壊された苗床場の整備、②住民参加型による木及び果樹の植林活動、③既存の環境保全委員会及びコミュニティーリーダーに対する能力強化研修の実施。

事業成果

洪水により流出した苗床場が新たに整備され、苗木の育成と、その育成された苗木を使っての植林活動を実施することができた。また、地すべりのリスクが高い場所におい

ては、住民と協力して苗木の植林を行い、伐採が自分たちのコミュニティにおける災害リスクを高めていることを住民自身が学び始め、環境保全への意識が徐々に芽生えてきている。

事業をよく知る関係者の声

- ・苗床の再整備により、住民へ植林用の苗木を再び配布できるようになったことは非常に意義深い。また、研修を通じて住民自身が環境保全の重要性を改めて学び直す良い機会となった。(農業局・苗床管理担当者)
- ・自然災害リスク軽減に有効な活動。住民参加の植林で意識と一体感が向上し、今後は技術移転と若者参画の強化が重要となる。(村のリーダー)

参加者の声

- ・今回の地すべり対策としてのじゃかご設置及び植林活動を高く評価するとともに、支援いただいた緑の募金及びホープに感謝する。(じゃかご設置受益者 40代男性)
- ・自らの生活に役立っていると実感。遠くの国からの支援に感謝する。(苗木支援受益者 30代男性)
- ・ザバにおける森林再生が着実に進んでいる。プロジェクト関係者及び支援者に感謝する。(ザバ郡農業局職員)



整備された苗床



住民への苗の配布



植林活動の様子



成長した苗木

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：220ha
 植付本数：1万800本
 下刈面積：220ha
 育苗：3,200本
 苗床場整地と整備：6日間
 環境保全研修：6日間

参加者数

エチオピア国内：2,426人
 計：2,426人

樹種

コーヒー、アボガド、バナナ、
 パパイア、グラヴィリアほか

木炭生産地での森林育成のための育苗と植林

ウガンダ・ナカソンゴラ県カコーゲ準郡、ルワビヤタ準郡



事業概要

目的は、水・ツール・知識・技術不足のため生産性の低い既存2育苗場の改善を図り、苗木を農家に安定的かつ廉価で販売できる体制を整備するとともに、併せて、新たに約80haの土地に植林・森林育成をすることである。主な活動は以下のとおり。①育苗技術・育苗場マネジメントトレーニング、高品質種子・育苗ツールの配布、給水システムとフェンスの設置、②植林技術のトレーニング、苗木の配布と植林。

事業成果

育苗グループに、苗木の生産や育苗場の技術トレーニング、種子・育苗ツールの供給により、育苗場の生産性が向上し、売上が76%増加した。IFOP育苗場では水やり改善のため太陽光揚水システムと貯水タンクを設置し、バインジカ育苗場では家畜被害や盗難対策としてフェンスを設置。農民グループ22名に、森林管理ワークショップを実施。合

計13種、4万株の苗木を配布・植林できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業はナカソンゴラ県の緑化に大きく貢献。長期的な成果を挙げるため、県政府として活動を適切に監督していきたい。(ナカソンゴラ県政府天然資源課長50代男性)
- ・対象2育苗場において、ワーカー(苗木の生産は主に期間労働であるため)が頻繁に入れ替わったため、トレーニング内容の定着が難しかった。(SPGSトレーナー29歳)

参加者の声

- ・育苗に関するトレーニングがとてもためになった。配布してもらった種子やツールのおかげで苗木の生産性・生産数が向上し、より多く安定的に苗木を供給できるようになった。(バインジカ育苗場のケアテーカー30代男性)
- ・校庭にマンゴの木を植えて楽しかった。初めて自分で木を植えた。果実が実るまでお世話をするのが楽しみ。(10代 国際森林デーの校内植樹に参加した女子生徒)



小学校における国際森林デー記念イベントでの植林活動の様子



IFOP育苗場給水ポンプの設置



育苗技術トレーニング



森林管理トレーニング

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：44.0ha
 植付本数：4万220本
 下刈面積：44.0ha
 育苗場トレーニング：5回
 森林管理ワークショップ：1回
 国際森林デー環境教育：2校

参加者数

ウガンダ：259人
 計：259人

樹種

ユーカリ、アルビジア・コリアリア、カリブマツ、マエソプシス・エミニ、アカシア

マダガスカルにおける School Forestry 作り活動による環境保全事業

マダガスカル・アンタナナリヴォ県アナラマンガ地区アンボヒダヒ村



事業概要

マダガスカルで13年続いた植林活動を基盤に、子どもたちを対象とした環境教育と実践を一体的に推進する。具体的には、学校で自然環境の課題を学び、種から苗木を育て、自ら植林する一連の体験に加え、保護者も参加し専門家の指導のもとで植樹を行う。これにより、植えた樹木を大切に守ろうとする気持ちを育て、環境保護を自らの行動として捉え、主体的に関わる意識の醸成を図る。

事業成果

専門家が苗木の説明をした時、ゲストに招いた高校の先生が、自分が子どもの頃雨が降らずに困った実際の経験を語った。その時、子どもたちは真剣に耳を傾けていた。この座学と土を掘り、樹木を植える実践との両立が、自然保

護の心を養うのではないかと思ったことが成果である。

事業をよく知る関係者の声

- ・アイユーゴーの活動対象国は、ベトナム、タイ、ラオス、マダガスカルで、そのうち、ベトナムとタイの担当者に内容を紹介すると、ベトナムから子どもたちへの環境教育の大切さと自然環境の保全・再生を実践することに、interesting, practical and meaningful『興味深く、実践的で、意義のある取り組みである』と返事があった。(アイユーゴーベトナム代表)。

参加者の声

- ・教室内や植林の現場では、「面白いね」、「また木を植えない」、「話が面白かった」などの声があり好評だった。



専門家(右)による苗木の説明



植林活動



自然環境の問題についての授業を実施



植林活動の苗木を育てる苗床

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5.0ha
植付本数：9,500本

参加者数

マダガスカル：700人
他：1人
計：701人

樹種

Harungana madagascariensis、Canarium madagascariensis、Cordyla madagascariensisほか

ネパール・インドラワティ村におけるコーヒー育苗と栽培による環境保全(2期1年次)

ネパール・シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村



事業概要

目的は、本事業の第1期で実施した事業地の10区でのコーヒー植樹による地域の産業づくりと持続可能な環境保全活動を近隣区でも行うことで、村全体の環境保全と共に換金作物の育成から生活を維持できる地域創造を目指すものである。活動内容は、①1区、2区、7区、9区、11区、12区においてコーヒー4,000本及び日陰樹1,000本の植樹並びに育苗500本を実施した。②10区においてコーヒー500本及び日陰樹100本の植樹を行った。さらに、維持管理及び収穫に向けた知識習得と新規区への知識共有を通じ、各区での定着を図った。

事業成果

コーヒー植樹を同じ村内の多区に広げることができた。特に、コーヒー農家協同組合の準備委員会が立ち上がり、地域においてコーヒー植樹(栽培)の定着への関心度が高まっ

たことが大きな成果である。その中で、日本からの植樹会への参加もあり国内外へ理解者が拡大し、更なる広がりや発展の可能性を感じることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・10区のコーヒーが非常に良く成長していて、収穫が楽しみ。7区にも多くのコーヒーが実り、希望を持って生活する人が増えることを期待したい。(7区 区長)

参加者の声

- ・最初に植えたコーヒーの木にたくさん実を付け始めた。コーヒーの実は動物により食べられることがないので、安心だ。私たちが植えている新しい木にもこのように実がなるように頑張るって育てたい。(12区 コーヒー農家)
- ・3年前に植えられた木にたくさんの実がなっていた。今回植えた木もこのように実を付ける木に育ってくれることを楽しみにしている。(植樹会参加者日本人)



コーヒーを植樹



トレーニングで習った樹木管理法の実践



10区の1期にて植樹した成長度合いとトレーニングによって整備されている様子



実施農民とのコーヒー協同組合設立に関するミーティング

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.9ha
植付本数：5,700本
その他：苗木づくり、整地ほか

参加者数

日本：34人
ネパール：380人
計：414人

樹種

コーヒー

比離島貧困村落でのマングローブ植林活動

フィリピン・パンダノン島



事業概要

目的は、地域コミュニティとの連携による植林活動により、大型台風で被災した離島貧困村落において失われたマングローブ林を復活することである。主な活動は、①マングローブ植林・保護活動(当該離島沿岸部0.5haに総数14,500本のマングローブの植林活動を展開)、②植林活動の持続性の向上につながるための環境教育の実施。

事業成果

マングローブの植林により、台風で荒廃した沿岸生態系の再生に向けた基盤が形成された。専門家の指導や啓発活動を通じて住民の環境保全意識が高まり、地域全体への浸透が進んだ。加えて、小学校やラーニングセンターでの環境教育により、子どもたちが郷土の自然の価値を学び、次世代育成の基礎が築かれた。さらに参加した日本の学生も現場体験を通じて国際協力への理解と意欲を高め、今後の環境分野での実践につながる契機となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・生態系の回復には、地域住民の理解と協力が不可欠のため、本事業は、植林と環境教育を組み合わせた点が高く評価できる。今後、定着率や生物多様性の回復状況について科学的データに基づく継続的なモニタリングが行われれば、事業の質はさらに高まる。(大学研究室)
- ・環境保護事業としてだけでなく、それを通じてコミュニティの絆が深まったように感じ、教育事業としての意義に気づかされた。(村落住民代表)

参加者の声

- ・子どもが環境教育で習ったことを家で一生懸命話すのを聞いて、自分も参加してみようと思った。この活動は、子どもたちに島の自然の豊かさを教える良い機会。自分たちの手で未来を作っている実感があり、参加して良かった。(植林活動に参加した地域住民)



島民たちによるマングローブ植林



パンダノン島の学生たちと育成中のマングローブ



日本からのボランティアメンバーと共に島内清掃活動



ラーニングセンターでの環境教育

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：1万4,500本
その他：清掃活動、環境教育

参加者数

フィリピン：872人
他：50人
計：922人

樹種

ヤエヤマヒルギ

ボルネオ島の荒廃地での在来種による生態系回復と環境教育

インドネシア・中央カリマンタン州西コタワリンギン県クマイ郡ジュルンブン地区



事業概要

生物多様性の宝庫であるボルネオ島では、森を皆伐してパーム油生産のためのアブラヤシ大規模農園を造成することによる森林減少が問題となっている。オランウータンの保護で有名なインドネシアのタンジュン・プティン国立公園とアブラヤシ農園の緩衝地帯であるジュルンブン地域にて、地域住民が主体の森林再生と生物多様性保全のため、①荒廃地（金採掘跡地）における、地元の自然資源を活用した在来種の植林方法を比較、②隣接する2次林でのエンリッチメント、③地元の学生へ活動を伝え継承していくための環境教育を行う。

事業成果

荒廃度が高い金採掘跡地では、苗木の活着率は高い。一



金採掘跡地での植林について解説を受ける中学生たち



土のう袋を活用した苗木は成長が著しく健康な状態を保っている



高校生たちとの環境教育でサバイバル術の一つとして焚き火での調理を体験



在来種の苗木を整理する村の人

方で、生育が遅いという課題があった。生育促進を目的に複数の有機資源の投入を比較した結果、良質の土と落ち葉を入れた土のう袋に植栽する方法で、生育が大きく改善した。

事業をよく知る関係者の声

- ・環境教育は、サバイバル術や植物標本づくり・植生調査など、生徒たちにとって様々な知識を得るいい機会になった。金採掘跡地で複数の植林方法を比較しているという事例も良い学習素材となる。（環境教育の引率教員 30代）
- ・国立公園のバッファゾーン（緩衝地帯）にある金採掘跡地を回復させる試みは、この地域ではまだ少ないためとても良い取り組みだ。（国立公園職員 50代）

参加者の声

- ・サバイバル術の話が一番興味深かった。（高3男子）
- ・初めてジュルンブンに来たが、今後も植林やほかのアクティビティにも参加したい。（高2男子）
- ・前回、自分たちで整備したルートでトレッキングしたことが一番楽しかった。（高2女子）
- ・これからも動物たちが安全に豊かな森で暮らせるように植林を続けたい（中1男子）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8.5ha
植付本数：4,000本
その他：環境教育、活着率のモニタリング

参加者数

インドネシア：60人
計：60人

樹種

フトモモ科の樹種7種、パラングラン、ニャトーほか

鉄砲水から棚田と子供の未来を守る植林事業の2年目

フィリピン・イフガオ州バナウエ市・ウハ町



事業概要

新型コロナウイルス感染症による失業とプロパン等の燃料の高騰により、止む無く煮炊き用の伐採が急速に進む村と棚田を守るための植林を行った。

事業成果

植林の本数を増やしたことで、より多くのボランティアの参加が得られた。特に地元政治家のグループの参加、地方行政（市役所・警察・消防）の全面協力もより強固になっている。3年で洪水・台風に対する防風林となる森の造成を目指すというコンセプトに揺るぎはない。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業の外部講師は、事業立案段階からの良き理解者で

ある。イフガオ州において棚田観光の進展により棚田の荒廃が進むことを20年以上前から指摘しており、その抑制の手段として植林の重要性を一貫して訴えてきた。本事業は、小学校の鉄砲水被害の防止に加え、棚田の水資源保全にも資することが期待される。現在も本事業への地域住民の参加を呼びかけている。

参加者の声

- ・今回は学校が長期休業の時に植林をしたから、子どもたちが参加できなかった。来年は学校の授業としてこの植林に参加したい。子どもたちに実際の行動を体験させて、本当の環境保全について考える機会にしたい（ウハ小学校の女性教諭たち）



苗木を増やしたことでより多くのボランティアが増えた



地方行政等の全面的な協力により植林を実施できている



小学校の鉄砲水被害の防止及び棚田の水資源保全を期待して植林活動



急斜面な現場でも多くのボランティアの手により2,500本の苗を植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2,500本
下刈面積：5.0ha
除伐面積：5.0ha

参加者数

フィリピン：300人
他：100人
計：400人

樹種

ナラ

アグロフォレストリー河畔林再生と普及啓発

ブラジル・パラ州トメアス市



事業概要

目的は、アグロフォレストリーの推進及び水源涵養林保全である。当会はトメアス文化農業振興協会、トメアス総合農業協同組合と共に以下の活動を行った。①アグロフォレストリーセミナーの共催、②小農家の河畔地帯におけるアグロフォレストリー植林の実施、③水源涵養林の重要性の啓発、アグロフォレストリーの維持管理手法の指導。

事業成果

本年度の植林は、サンマルコス生産者協会の協会員を対象に各協会の所有する土地合計5.0haに6,430本の植林を実施した。毎月の現地訪問指導による技術指導によって、延べ約300人が参加し、適切な施肥や石灰の使用方法、植付方法、植栽後の管理などについて学んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・トウモロコシやカボチャ、パッションフルーツなどの短期作物を組み合わせて植林した方が、より早く小農家の収入確保につながるため、検討した方が良い。(農業技師)

参加者の声

- ・水源涵養林の機能を理解することができた。水源涵養林の保全に役立てたい。(小農家20代男性)
- ・引き続き継続して植え付け作物の成長状況のモニタリング、技術指導をして欲しい。(小農家30代男性)
- ・一昨年より乾燥が激しくなり、植えても枯れてしまう可能性が高いため、灌水設備の整備を検討していただきたい。(小農家40代女性)



セミナー講習会の実施



植林の技術指導



植林の様子



事業看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5.0ha
植付本数：6,430本
その他：植栽後モニタリングほか

参加者数

ブラジル：310人
計：310人

タイ北部山岳地域サンティスク村の森林再生と農村開発

タイ・パヤオ県ポン郡ククワン地区サンティスク村



事業概要

「GMO トウモロコシ畑」を「果樹林」に転換し、持続可能な森林農業を通じて、荒廃した大地を緑豊かな農地へ再する。これにより森林の再生を図るとともに、自立かつ持続可能で安定した豊かな生活の向上を目指す。さらに、環境保全型森林農業及び循環型社会形成のモデルとして地域への波及を目的とする。活動内容は、①果樹の植栽、②生育調査に併せて病害虫や土質などの障害調査を実施。

事業成果

当該地区の植栽地は従来と大差ない条件にあり、樹種選定に大きな問題はない。ただし、ドリアンについては引き続き管理に注意が必要であるため、工夫を凝らした栽培管理（植栽直後の水管理・半日陰の対策）を指導している。その結果、活着率は、85%程度でやや良好である（当初は、30

～50%に留まっていた）。

事業をよく知る関係者の声

- ・5年前ようやく道路が整備され、雨期でも収穫物の運搬ができるようになった。これからは、マンゴーやドリアンなどの果物を中心に収穫を楽しみに栽培に専念し、新鮮果物の村としたい。（サンティスク村村長）

参加者の声

- ・これまでドリアンの栽培方法が不明であったため植栽していなかったが、今回習った方法で植えた。ただし、今後の生育については心配。（村民）
- ・果物は初めて植えるため、3種類（マンゴー、ドリアン、ランブータン）を選定。良く育つように頑張りたい。（村民）



植栽場所の確認



手前に苗木（配布用）と植栽に参加する村民世帯員



植栽した果樹の苗と記念撮影



生育障害調査の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：38.4ha
植付本数：5,100本

参加者数

タイ：550人
計：550人

樹種

ドリアン、マンゴー、ゴム、アボカド、ランブータンほか

調理用薪削減と薪炭林造成事業

ミャンマー・タウンジー県タンボジ村、マジーセイ村



事業概要

目的は政変後の電力不足で加速する薪伐採による森林破壊を解決することである。活動は以下のとおり。①かまどの試作：専門家と村落開発委員会の協働、②かまどの生産・配布：地域に最も適したかまどの生産・配布、③かまどの使用法研修：地域住民にかまどの製作と使用方法を指導、④植林の実施：薪炭林として村の共有地に地元種を植林、⑤環境研修の実施：森林保全についての研修を実施。

事業成果

専門家との協働により、事業地で入手できる燃料で有効利用できるかまどを開発することができ、より効率的に森林伐採を防ぐことが可能となった。

事業をよく知る関係者の声

・同様な活動は政府も実施しているが、職員が実施してい

るのみで非常に小規模である。一方、NGOが地域住民と協働することで、環境保全への意識の向上が見られた。政府事業では、職員が植えても住民が薪として使用したり、焼いてしまったり、維持管理に課題があるため、協働事業をもっと進めていくべき。課題としては、湖への土砂流出の防止である。(ニャウンシュエ郡森林省スタッフ)

参加者の声

- ・問題意識はあったが、活動をするきっかけがなかった。今回のような事業をしてくれたことで、環境保全活動の一歩を踏み出すことができた。(タンボジ村民)
- ・配布してもらったかまどは、薪の使用量が少なくて済む。自分たちの生活に適している上に、品質が良いので水害に遭っても壊れないから安心。(タンボジ村民)



植林の様子



かまどの配布



かまどの使用に関する研修



環境保全研修

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5.8ha
植付本数：6,350本
下刈面積：5.8ha

参加者数

ミャンマー：215人
計：215人

樹種

地元種

